

參考資料

参考資料 1 フィールドチェック

1. 目的

新たな重点整備地区候補地の旅客施設、および生活関連施設相互を結節する生活関連経路の現状、さらには歩行者動線上に存在するバリアフリー化の支障物件の状況を、実際に現地を歩くことにより把握することを目的としました。

また、平成 15 年に策定した基本構想において、重点整備地区とされた地域の特定経路について整備後の状況を確認し、バリアフリー化の状況を把握するとともに、さらに改善すべき事項の有無を検討し、改善が必要な事項については、今後の整備に反映させることを目的としました。

2. チェック項目

<道路>

段差、勾配、舗装材、視覚障がい者誘導用ブロック、マンホール・排水施設、その他歩道上の支障物件 等

<交通安全施設>

信号機

<交通機関>

エレベーター、トイレ、階段、視覚障がい者誘導用ブロック、案内表示 等

3. チェック方法

グループに分かれて移動しながらチェック項目についての意見を市役所職員等が記録し、結果について市役所会議室でとりまとめを行いました。

4. スケジュール

平成 20 年 8 月 5 日（火） 9：30～13：00

集合場所 札幌サンプラザ 2 階会議室

9：30	「札幌サンプラザ」集合 概要説明等
9：50～10：50	地下鉄「北 24 条駅」周辺 フィールドチェック <北 24 条駅→大通駅 地下鉄にて移動>
11：20～12：20	地下鉄「大通駅」周辺 フィールドチェック
12：30～13：00	札幌市役所本庁舎 18 階「第三常任委員会会議室」にて 結果とりまとめ

5. フィールドチェック参加者

フィールドチェックは43名が参加し、「北24条駅周辺」、「大通駅周辺」とも3グループにわかれて調査をしました。

- ・ 視覚障がい者：5名（全盲4名うち盲導犬同伴者1名、弱視1名）
- ・ 盲ろう者：1名
- ・ オストメイト：1名
- ・ 肢体不自由者：3名（車いす1名）
- ・ 声帯摘出者：1名
- ・ 聴覚障がい者：1名
- ・ 介助者・ヘルパー：7名
- ・ 委員：10名
- ・ 市役所職員：10名
- ・ スタッフ（受託業者）：4名

6. 調査路線

各駅の調査区間を「赤」「青」「緑」の3グループに分けました。

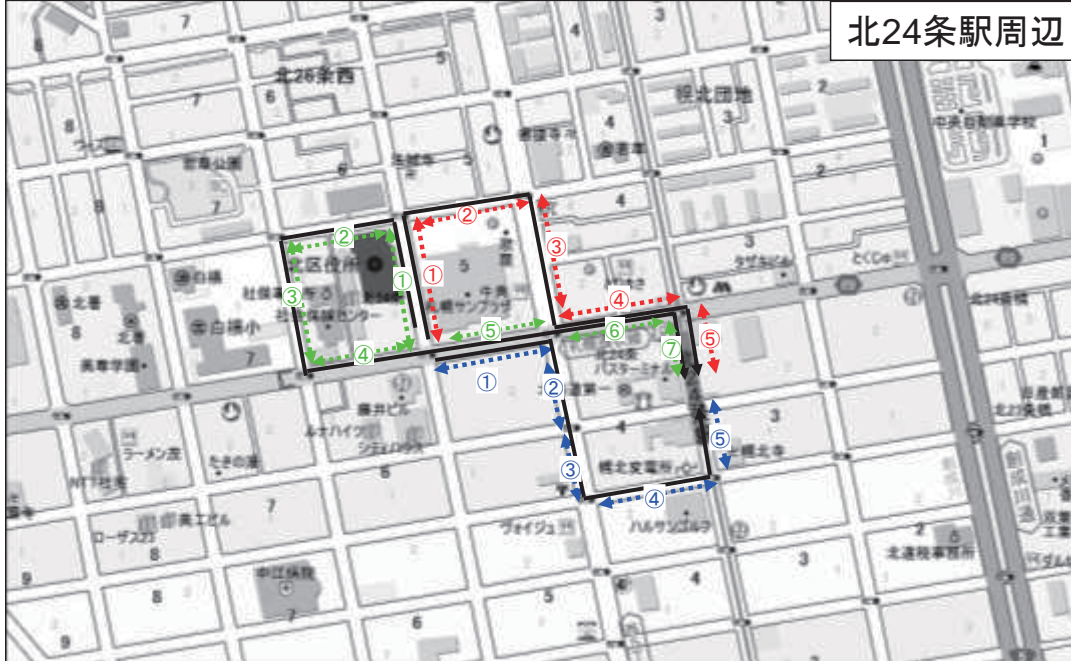


図-1 北 24 条駅周辺

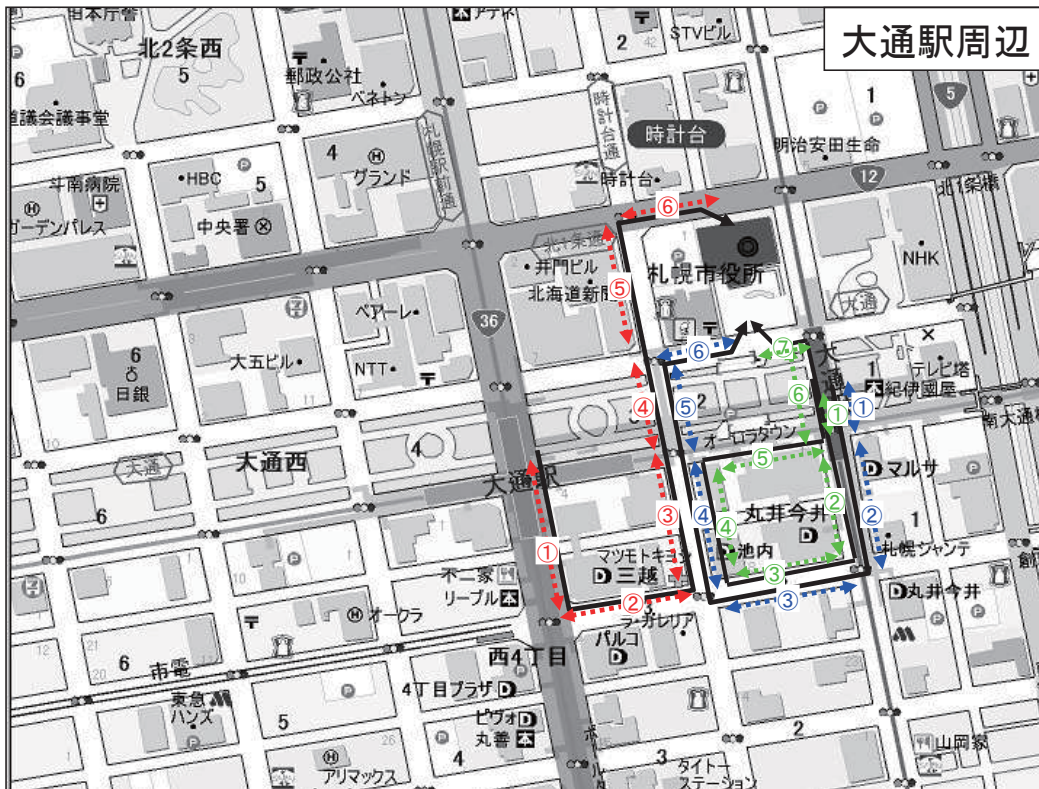


図-2 大通駅周辺

<北24条駅>

現地写真	チェックのポイント
	<エレベーター> <トイレ>
	<案内表示>
	<誘導用ブロック>
	<その他>

<北24条駅周辺> 緑グループ

区間① 現地写真	チェックのポイント
	<有効幅員>
	<横断急勾配>
	<路面の波打ち>
	<誘導用ブロック>
	<その他>

図-3 フィールドチェック調査票（北 24 条駅周辺の例）



図-4 フィールドチェックの様子

7. 調査結果とりまとめ

フィールドチェックを行い得られた主な意見を以下に示します。

(1) 北24条駅周辺

場所	箇所	内容	問題点	詳細・対処方法・要望
北24条駅周辺	レンガ状の舗装	波打ち・凹凸がある	視覚障がい者の人はすり足で歩くことがあるため、つまずく危険がある。 車いす、ベビーカーにとって凹凸は動きにくい。	線を削ったレンガ状の目地は段差が大きいため、目地を狭くして付けて欲しい。 大きい舗装材は目地が少ないので、動きやすい。
北24条駅周辺	歩道	凹凸、急勾配	駐車場の出入口や、インターロッキングブロックが古くなり凹凸がある。	視覚障がい者としてほそれほど歩きづらくはない。勾配があることで駐車場の出入口の目印になる。 しかし、車いす使用者は非常に通りにくい。
北24条駅周辺	歩道	横断急勾配	歩道を民地の高さの無理に合わせて作っているため、急勾配になっている所がある。 車いすが飛び出してしまう危険性もある。	歩道の作り方として、民地に無理に合わせるのではなく、階段などで対応し、歩道は平らにするべきではないのか。
北24条駅周辺	交差点部	交差点まわりの縁石段差	歩道のアスファルトの面が沈下してしまい、縁石の部分が飛び出ている。	
北24条駅周辺	交差点部	車道側の縁石段差	本来2cmの段差が必要だが、歩道の補修の時に段差が埋められ、非常にいびつな構造になっていた。	
北24条駅周辺	交差点部	音響式信号	音が小さく聞こえにくい。	
北24条駅周辺	横断歩道	横断歩道の動線	横断歩道のある場所が交差点から下がったところに配置されており、動線としてつまずく歩いていけない。	スムーズに歩けるような対応をして欲しい。
北24条駅周辺	誘導ブロック	建物の出入口がわからな い	サンブラザーの入口がわかるような誘導ブロックの表示になっていない。	公共施設的な建築物については、入口がわかるような表示をした方がよいのではないか。
北24条駅周辺	誘導ブロック	誘導ブロックの目地が大き い	誘導ブロックの目地に白杖が引っかかってしまう。	目地を小さくして欲しい。
北24条駅周辺	誘導ブロック	マンホール上で誘導ブロッ クがとぎれている		大通のように、マンホール上にも誘導ブロックを敷設して欲しい。
北24条駅周辺	誘導ブロック	誘導ブロックのない歩道が ある	民地側の壁を頼りに歩くが、大きい通りになってしまうと駐車場や店舗の入口を下げているので、どこまでが歩道なのかわからなくなる。 場合によっては歩いている方向がわからなくなる。	誘導ブロック敷設の重要性が高い。
北24条駅周辺	誘導ブロック	誘導ブロックの欠落	除雪のためか、貼る形の誘導ブロックがはがれている。	
北24条駅周辺	自転車	駐輪場	自転車が歩道にたくさんある。 加えて幅員の狭い歩道に札幌市の路上駐輪場がある。	維持管理を含めた対応が必要。 維持管理も含めてバリアフリー化に努めるべきである。
北24条駅周辺	路上の障害物	ゴミステーション	つまずきの原因になる。	
北24条駅周辺	路上の障害物	看板	つまずきの原因になる。	
北24条駅周辺	路上の障害物	ブロック	つまずきの原因になる。	
北24条駅周辺	路上の障害物	自転車	つまずきの原因になる。白杖が引っかかる。	
北24条駅周辺	路上の障害物	店舗の商品	歩道に店舗の商品を並べているため、障害物となり、つまずきの原因になる。 さらに交差点部であるが、誘導ブロックがない。	民地側の方へ探りながら歩かなくてはならず、店先の商品にぶつかると。道路の管理・整備で総合的に対応が必要ではないか。

(2) 北24条駅

場所	箇所	内容	問題点	詳細・対応方法・要望
北24条駅	出入口	段差の認識がしづらい	出入口に3cm程度の段差があるが、グレー一色のため段差が認識できない。	黄色などで着色すると分かりやすいのではないか。
北24条駅	階段	段差の認識がしづらい	階段の角の部分の着色が十分ではなく、段差を認識しづらい。	着色部分の検討が必要ではないか。
北24条駅	階段	手すりの形状	手すりの端がまっすぐな形で終わっているため、使う時に袖が引っかかることがある。	端部を曲げるなどの対応をして欲しい。
北24条駅	階段	距離が長い	階段が延々と続くため、エスカレーターがあればよいのではないか。	
北24条駅	多目的トイレ	音声案内が遅い	通り過ぎてしまいうようなタイミングで案内がでる。	案内の感度を上げて欲しい。
北24条駅	多目的トイレ	通常のトイレでの案内	通常のトイレに男女の表示がない。	手すりに点字で男女の表示を行えば、間違わないで済むのではないか。
北24条駅	触地図	触地図の存在がわからな い	触地図があるところに音声案内が無いため、触地図があることが認識できない。	音声案内とセットでの対応を望む。
北24条駅	触地図	触地図の設置場所	触地図の設置場所が駅によってバラバラなので、どの場所に触地図があるのかを、駅ごとに覚えなくてはならない。	駅構内のレイアウトの統一を図って欲しい。
北24条駅	触地図	触地図の周知	触地図があることを知らなかった。	
北24条駅	エレベーター	場所の周知	エレベーターがどこにあるのかわかりづらい。	

(3) 大通駅周辺

場所	箇所	内容	問題点	詳細・対処方法・要望
大通駅周辺	段差	段差の認識がしづらい	歩道に接する民地、沿道施設の段差の認識がしづらい。	詳細・対処方法・要望 段差に着色をすると弱視の人も認識しやすいのではないか。
大通駅周辺	誘導ブロック	敷設されていない	西2丁目線は舗装されているが、誘導ブロックがない。 商業施設の出入口がわからない。	早急に敷設をして欲しい。
大通駅周辺	誘導ブロック	JIS規格にあっていない	歩道整備を行った当時の規格の誘導ブロックが敷設されている。	
大通駅周辺	音響式信号	歩車分離信号がわからない	音響式信号の鳴り方が統一されておらず、歩車分離信号であることに気づかないため、延々と待ってしまう。	音響式信号の鳴り方を最新のものに、早急に変えて欲しい。
大通駅周辺	音響式信号	音が小さい	音が小さく聞こえにくい。	
大通駅周辺	音響式信号	スピーカーの位置	音響式信号のスピーカーの位置と、その下にある誘導ブロックの位置が一致していない。	改良が必要ではないか。
大通駅周辺	路上の障害物	地下の出入口	歩道上に地下の出入口があり、歩道を歩く際に支障になってしまふ。	
大通駅周辺	路上の障害物	花の植え付け	北陸銀行の西側の壁に花壇があるが、下から50cmほど浮いている。	出っ張りが顔の位置に来てしまい、視覚障がい者は白杖では認識できないため、ぶつかると危険性がある。
大通駅周辺	路上の障害物 誘導ブロック	自転車・誘導ブロックの位置	自転車が置かれることにより、歩道の幅が狭く、介助者と並んで歩けない。 歩道の車道寄りに自転車が置かれ、誘導ブロックの車道寄りに敷設されていることから、自転車が誘導ブロックの支障になる。	配置のことを考え、沿道の店舗側に整備する必要があるのではないか。

(4) 良い点

場所	箇所	内容	問題点	詳細・対処方法・要望
北24条駅	バスターミナル	整備がされている	誘導ブロックの整備や、音声案内がしっかりされている。	
大通駅	地上への動線	地上への動線	エレベーターを使い、最短経路で地上に出ることが出来るので、つながりとしてはよい。	

(5) 全体を通して

場所	箇所	内容	問題点	詳細・対処方法・要望
	触地図	触地図のわかりやすさ	初めて来た駅で触ってもわからないのではないか。	使い方をレクチャーしてもらえないと使えない。
	多目的トイレ	トイレ内施設の配置	駅によって、洗面や便器の配置が異なるため、初めて行く駅では配置がわからない。 開閉ボタンの場所がわからない。	入口に中の配置の案内が点字であったが、ドアの開閉ボタンの案内はされていない。
	多目的トイレ	盲導犬の対応	盲導犬の排泄場所がない。	多目的トイレに、盲導犬の排泄が出来るスペースがあるとよい。
	休憩施設	駅構内の休憩施設が少ない	階段やエスカレーターなどの休憩施設を設けて欲しい。	
	植樹帯	植樹帯の管理	植樹帯の土を平らに盛らないと凹凸が出来て危険。	
	沿道の木	民地から木が歩道に出ている	民地から木の枝や、ギザギザの木などが出ており、ぶつかると危険性がある。	
	誘導ブロック	マンホール上の誘導ブロック	マンホール付近の誘導ブロックは、場所により「マンホールでとざれている」「マンホール上にも敷設されている」「マンホールを迂回するように敷設されている」の3パターンが存在する。	一貫性を持たせることが誘導ブロックにおいて非常に重要ではないか。
	誘導ブロック	誘導ブロックの種類	誘導ブロックの色は時間が経過するにつれて、白くなっていくため、認識されづらくなる。	白くなってしまふことを考慮して、端を黒にしたブロックの敷設をすることで対応できるのではないか。
	雪の問題	北海道は雪がある	雪解けの時期と、雪が多い時期にフィールドチェックして欲しい。	冬に対するバリアフリーの対策がまだ打ち出されていないので、フィールドチェックを行い、計画を立てて欲しい。
	その他の地区	他の地区のフィールドチェックは行うのか	雪の問題を解決しなければ障がい者は冬は出歩かない。	フィールドチェックを予定しているのは今回のみ。
	自転車	マナー	歩道をかなりのスピードで走る自転車がある。 無灯火の自転車が多い。	自転車のマナーについて広くアピールして欲しい。

(6) その他の地域に対する意見

場所	箇所	内容	問題点	詳細・対処方法・要望
駅前通	誘導ブロック	誘導ブロックが敷設されない	駅前通の歩道を整備する計画があって、それに併せて誘導ブロックが敷設されることだったが、敷設されていない。	「検討中」ではなく、いつまでに敷設するかということをも具体的に示して欲しい。
南区	バス停	バス停が空中に浮いている	バス停の下が空間になっているため、視覚障がい者の方は白杖で認識できないので、ぶつかると危険性がある。	

参考資料2 パブリックコメントの実施概要について

新たな基本構想の策定にあたりましては、広く市民の方から意見をいただくためのパブリックコメントを下記のとおり実施しました。

- ① 実施期間：平成20年10月27日（月）～11月25日（火）（30日間）
- ② 実施方法：市役所本庁舎・区役所・まちづくりセンターのほか、札幌市身体障害者福祉協会、札幌市視覚障害者福祉協会（点訳版含む）にて冊子配布のほか、札幌市役所ホームページ上で、PDF版の文書及び、読み上げブラウザ対応ページを公開しました。この他、障がい者団体（札幌市視覚障害者福祉協会、DPI北海道ブロック会議、札幌市肢体障害者協会）への説明会と意見交換を実施しました。
- ③ 意見総数：226件（15人、3団体：札幌市視覚障害者福祉協会、DPI北海道ブロック会議、交通権を考える連絡協議会）
- ④ 意見分類：基本構想に関する意見：12件
その他の意見：214件（個別施設や具体的な場所に対する意見、要望等）

施設	件数	主な意見	件数		
基本構想	12	生活関連施設	10		
		重点整備地区	2		
道路	70	幅員が狭い(管理上の問題)	23		
		幅員が狭い(構造上の問題)	12		
		段差・勾配	8		
		冬季対策の充実	7		
		視覚障がい者誘導用ブロック	6		
		自転車の走行空間	4		
		その他の施設	4		
		マナー	4		
		維持管理	2		
		旅客施設	53	利用について制約等	19
				駅構内のバリアフリー化(その他の施設)	17
車両	6				
駅構内のバリアフリー化(ホーム柵整備)	3				
バス停	3				
路面電車	3				
マナー	2				
横断歩道	1				
信号機	9				
押しボタン	4				
駐車場	3	施設	2		
		利用方法	1		
建築物	37	トイレ	16		
		その他の施設	8		
		勾配・段差	6		
		ホテル	6		
		学校	1		
施設全般	5	構造等	5		
情報提供	13	障がい者に対する情報提供の充実	9		
		市民に対する情報提供の充実	4		
新たな仕組みの導入	6	料金	2		
		制度	2		
		規制	1		
		自転車	1		
計画策定・整備の進め方	10	手続き、実施体制など	5		
		協働・参画	4		
		基本的な視点	1		
その他	7	パブリックコメントの方法	4		
		税負担	1		
		自転車利用の促進	2		

⑤ 基本構想に対する意見とその対応

	意見の内容	対応の内容
①	最寄のバス停を、生活関連経路に含めてほしい (2件)	基本構想を修正します <ul style="list-style-type: none"> 施工時にはバス停の位置を調査し、対象施設から最寄りのバス停までの経路を生活関連経路に追加します。(ただし、バス停は移動する可能性があることから、重点整備地区内の経路としては表示しません)
②	避難所に指定されている学校までの経路を、生活関連経路にしてほしい (2件)	基本構想を修正します(平成21年度) <ul style="list-style-type: none"> 災害時に備え、重点整備地区内に存在する避難所に指定されている施設を生活関連施設に位置づけ、生活関連経路の追加を行います。 ただし、現地の道路状況の確認等を行った上で経路を選定する必要があるため、平成21年度に現地調査を行ったうえで見直しを行います。
③	道立近代美術館から三岸好太郎美術館まで、広範囲に知事公館の東側、北側、西側の道路もバリアフリー化されれば、散策できるようになる	基本構想を修正します <ul style="list-style-type: none"> 都心内で観光客等の利用も多く見込まれることから、生活関連施設相互を連絡する経路として「その他の生活関連経路」に追加します。
④	北翔養護学校、みかほ整肢園、ひまわり整肢園周辺のバリアフリー化をお願いいたします。	北翔養護学校(基本構想は修正できません) <ul style="list-style-type: none"> 北翔養護学校は、重点整備地区から大きく離れていることから、現在のところは、生活関連経路の指定をしていませんが、今後の施設の利用実態や、周辺道路の整備状況を見ながら、バリアフリー化の必要性を検討します。
		みかほ整肢園(基本構想を修正します) <ul style="list-style-type: none"> 隣接する老人ホームへの経路が、主要な生活関連経路になっていることから、当該経路の一部を変更します。
		ひまわり整肢園(基本構想の修正は必要ありません) <ul style="list-style-type: none"> 既に澄川駅から主要な生活関連経路に位置づけています。
⑤	JR白石駅近くの救護施設「あけぼの荘」までの経路についても生活関連経路とすべきである。	基本構想を修正します <ul style="list-style-type: none"> 救護施設は、生活保護法を根拠とする保護施設であり、障がいを持った方の利用も多く見込まれることや、あけぼの荘がJR白石駅を中心とする重点整備地区内にあることから、「その他の生活関連経路」に追加します。

意見の内容		対応の内容
⑥	地下鉄大谷地駅の交通局側の出入り口周辺はエレベーター出入り口があるため、整備が必要ではないか	基本構想の修正は必要ありません <ul style="list-style-type: none"> 当該個所は、交差点部分のバリアフリー化を行うことで、バリアフリー化済みの主要な生活関連経路に連絡できることから、今後の維持修繕の範囲で対応が可能です。
⑦	平和通には、病院、スーパーなど、北郷側には老人福祉施設があることから、両地区を結ぶ経路をバリアフリー化してほしい	基本構想は修正できません <ul style="list-style-type: none"> 当面はJR白石駅から生活関連施設までの経路を行ったうえで、北口側に立地する生活関連施設のバリアフリー化の状況や地区内の生活関連経路の整備状況に応じて、さらなる生活関連経路の追加等を検討することとします。
⑧	ミニ大通をバリアフリー化してほしい	基本構想は修正できません <ul style="list-style-type: none"> 当面は、重点整備地区内における鉄道駅等の核となる施設からの徒歩圏内として概ね半径0.5kmあるいは1km四方の範囲にある対象施設までの経路を優先的に整備していく考えであり、現時点で当該路線の整備を行っていくことは難しい状況です。今後、改修等のタイミングにあわせ、バリアフリー基準に適合させるように努めてまいります。
⑨	整備地区から少し離れた病院、福祉施設、文化施設などへの経路もバリアフリー化して欲しい	基本構想の修正は必要ありません <ul style="list-style-type: none"> 重点整備地区の範囲は鉄道駅等の核となる施設からの徒歩圏内として概ね半径0.5kmあるいは1km四方の範囲を基本としているが、施設の立地状況により、核となる施設から経路延長が1kmまでの範囲にある医療施設、文化施設、行政機関が運営する福祉施設等への経路は生活関連経路に位置付けています。
⑩	拓北養護学校周辺の駅、スーパー等をバリアフリーにしてほしい	基本構想は修正できません <ul style="list-style-type: none"> 本基本構想では、5,000人/日以上の利用者数のある駅を中心とする地区や地域中心核を重点整備地区に指定し、バリアフリー化を進めることとしているが、拓北駅については利用者数が5,000人/日以下であるため、現在のところ、重点整備地区にすることは困難です。今後の駅利用者の動向や、将来的に拓北駅がバリアフリー化された段階で、周辺の道路のバリアフリー化について検討を行います。

※上記の対応結果については、市民まちづくり局のホームページ上で公開するとともに、意見を提出していただいた方に対しても、お知らせいたします。

⑥ その他の意見への対応

個別施設や具体的な場所に対する意見、要望等については、項目別に整理し、札幌市の考え方をホームページ上で公開するとともに、意見を提出していただいた方に対しても、お知らせいたします。

参考資料3 第5期福祉のまちづくり推進会議および第2次札幌市交通バリアフリー
 一基本構想検討部会委員名簿

第5期福祉のまちづくり推進会議委員			第2次札幌市 交通バリアフリー基本構 想検討部会委員(兼任)
会長は◎ 副会長は○			
	氏名	出身団体	部会長は◎、委員は○
◎	千葉 博正	札幌大学	○
	岸 邦宏	北海道大学	◎
	大垣 直明	北海道工業大学	
	田中 耕一郎	北星学園大学	
	浅沼 直樹	北海道建築士会札幌支部	
	照井 幸一 (館岡 太平)	札幌ハイヤー協会	○
	村木 日文	札幌青年会議所	○
	酒田 有一 (村上 隆)	北海道バス協会	○
	中ノ殿 恭子	札幌ホテル旅館協同組合	
○	神田 直也	札幌市身体障害者福祉協会	
	古谷 久幸	札幌市視覚障害者福祉協会	
	野宮 幸	札幌手をつなぐ育成会	○
	丸谷 みづ子	札幌市精神障害者家族連合会	○
	山口 富美	札幌市老人クラブ	○
	佐藤 澄雄	札幌高齢・退職者団体連合	
	末廣 隆典	札幌市社会福祉協議会	○
	牧野 昭子	札幌市ボランティア連絡協議会	
	伊藤 トヨ子	公募委員	
	岩井 チエ	公募委員	
	佐々木 悠祐	公募委員	○
	齊藤 有一	公募委員	○
	今田 雅子	公募委員	

() は平成19年度委員

参考資料 4 第 2 次札幌市交通バリアフリー基本構想検討部会臨時委員名簿

氏 名	出身団体	備 考
おの 俊博 (関根 和一)	北海道開発局札幌開発建設部（道路維持課長）	
たむら 桂一	北海道開発局札幌開発建設部（道路調査課長）	
たしか たかし (高橋 彰)	北海道警察本部交通部交通規制課	
にしはら えいじ 西原 英二	北海道運輸局札幌運輸支局	
おざわ なおまさ 小澤 直正	北海道旅客鉄道株式会社	

() は平成 19 年度委員

参考資料5 新・札幌市バリアフリー基本構想 第1回見直しの概要について

● 時期 : 平成23年12月

● 経緯

当初の基本構想（平成21年3月策定）の策定作業中に行ったパブリックコメント（平成20年10月～11月）において、下記のとおり意見が出され、回答を行っています。

○ パブリックコメントにおける意見・回答（参照：参考-11）
「意見」避難所に指定されている学校までの経路を、生活関連経路にしてほしい。
「回答」災害時に備え、重点整備地区内に存在する避難所に指定されている施設を生活関連施設に位置づけ、生活関連経路の追加を行います。
ただし、現地の道路状況の確認等を行った上で経路を選定する必要があるため、平成21年度に現地調査を行ったうえで見直しを行います。

この度、現地調査や関係施設管理者との協議が整ったことから、「新・札幌市バリアフリー基本構想」の一部見直しを行いました。

● 内容

「生活関連施設に避難所を追加」

・ 生活関連施設への追加の対象となる避難場所の種類

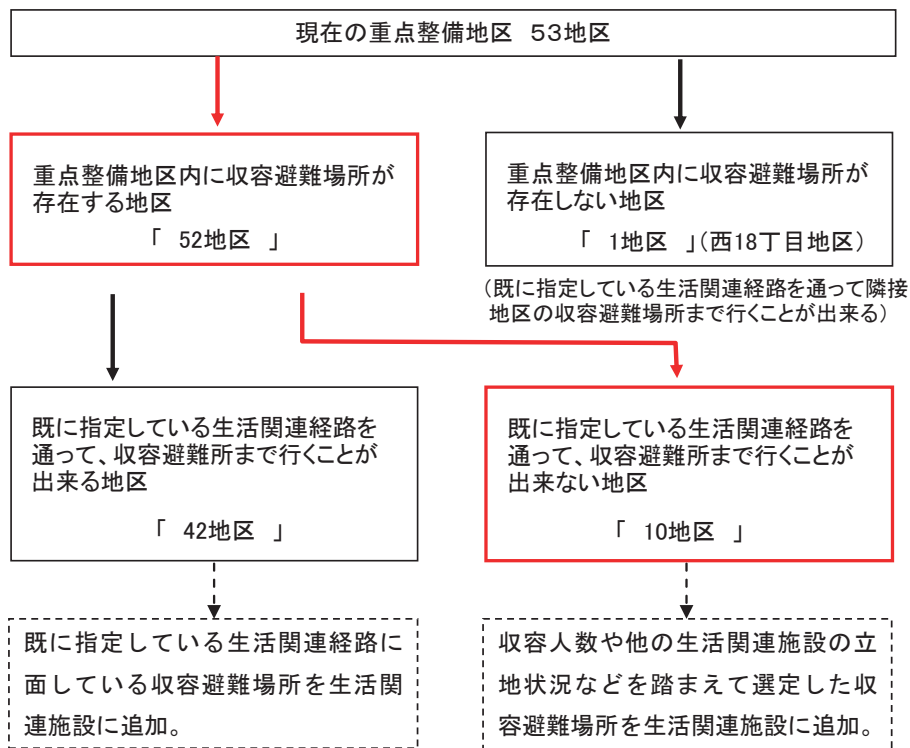
避難所には、公園や広場等を指定した「一時避難場所」「広域避難場所」と、学校や地区の会館等を指定した「収容避難場所」があります。今回の見直しでは、冬の災害や長時間の避難時にも対応できる「収容避難場所」を生活関連施設への追加の対象としました。



- 生活関連施設に追加する収容避難場所

現在指定している53箇所の重点整備地区内には210箇所の収容避難場所があり、このうち110箇所は、既に指定している生活関連経路に面して立地しています。残りの100箇所全てを生活関連経路で結ぶことが理想ではありますが、効果的なネットワークを早期に構築する上では、優先的に結ぶ施設を絞り込む必要があります。

このため、今回の見直しでは、各重点整備地区内において、少なくとも1箇所以上の収容避難場所を生活関連施設に位置付けることとし、既に指定している生活関連経路に面して立地する収容避難場所がない地区における施設の選定は、小・中学校を中心に、収容人数や他の生活関連施設の立地状況などを踏まえて行いました。



「避難所までの経路を生活関連経路に追加」

重点整備地区内に収容避難場所が存在し、既に指定している生活関連経路を通して収容避難場所まで行くことが出来ない10地区において、収容人数や他の生活関連施設の立地状況などを踏まえて選定した収容避難場所までの経路を、生活関連経路に追加することとしました。

現地調査の結果などを踏まえ、今回の見直しでは、約2kmを、新たに生活関連経路に指定しました。

追加する生活関連経路 : 10地区 約2km